
【編集後記】『現象と秩序』第23号をお届けします。

今号では複数の論文（加戸論文、真鍋論文、岡田論文）に360度全方位ビデオカメラが出てきます。360度全方位カメラは、岡田（38頁）が言うように「多視点カメラ」です。すなわちソフト的な操作によって、事後的に視点を自由に設定した2次元動画を創り出せます。360度ビデオカメラを複数台用いた調査データなら、少なくとも視覚的環境に関しては、環境全部をまるごと保存したデータであるといえるでしょう。しかし、この「まるごとさ」は調査にとって朗報でしょうか。簡単にはそうとは言えないと思います。それは、ビデオカメラの「画角」が「視野範囲類似的志向性」を失ったことによる困難を我々は無視できないからです。じつは、これまでのビデオデータを用いた研究は、自覚しない形で、この「視野範囲類似的志向性」を活用して研究をしていました。我々の眼は、世界を視野的に切り取る働きをしていて、そこに、志向性の根拠も、視線を向けられたことに対する反応の根拠もあったのですが、ビデオカメラがとらえた映像を分析する際にも、我々は、人間の眼の働きにおいて有意味化していた諸概念を、ほぼそのまま流用していました。これまでのような野砲図な流用は今後はもうできないかもしれない……。これは、ビデオを利用した人文・社会科学的研究の危機です。しかし、この現在の危機的状況には解放の側面もあるかも知れないということを、岡田論文は訴えています。じつは、他の論文（堀田論文、藪本論文、松浦論文）も、見ること／見られることにかかわる論文です。普通の障害経験の語りとは違う位相から「ろう者の語り」を分析した飯田論文同様、本号には、我々が世界を知るためにどのように感覚器的常識を生きたり、生きなかつたりするべきか、に関して示唆的な論文が集まっています。本号もどうぞお楽しみ下さい。なお、本号掲載の特集は、ショッピングリハビリ共同研究（科研費23K17573）の成果の一部です。ファンド提供者に記して感謝します。（Y.K.）

『現象と秩序』編集委員会（2025年度）

編集委員会委員長：堀田裕子（摂南大学）

編集委員：樋田美雄（摂南大学）、飯田奈美子（関西外国語大学）、加戸友佳子（摂南大学）

編集協力：村中淑子（桃山学院大学）

編集幹事：大江勇輝（京都産業大学）

『現象と秩序』第23号 2025年10月31日発行

発行所 〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8

摂南大学 現代社会学部 樋田研究室内 現象と秩序企画編集室

電話・FAX：072-800-5389（樋田研）、e-mail：kashida.yoshio@nifty.ne.jp

PRINT ISSN：2188-9848, ONLINE ISSN：2188-9856

<https://gensho-kashidayoshio.sakuraweb.com/> （←昨年から新サイトになりました）
